

はじめに

現在、上白根中学校は、一般学級数が6学級（小規模校）となっており、横浜市で最も生徒数が少ない学校となっています。今後も小規模校の状態が継続していく見込みです。そのため、『旭北中学校・上白根中学校』通学区域と学校規模適正化等検討部会において、隣接する旭北中学校との間で、上白根中学校の適正規模化に向けて具体的に検討しており、10月29日に第1回部会、12月6日に第2回部会を開催しました。今後も、この部会での検討状況等については、本ニュースを発行し、両校の通学区域内にお住まいの皆さまや保護者の皆さまにお伝えしていきます。

第2回検討部会での検討事項など

- 横浜市における過去の学校統合事例や義務教育学校の設置事例について説明しました。また、旭北中学校と上白根中学校が仮に統合した場合の推計を示しました。
- 第3回検討部会では、引き続き上白根中学校の適正規模化に向けた具体的な対応を協議することになりました。

第2回検討部会

日時：令和元年12月6日（金）

19時00分から

会場：ひかりが丘地域ケアプラザ1階



1 両校の基礎情報

【施設状況】《令和元年5月1日現在》

学校名	上白根中学校	旭北中学校
開校年	昭和46年(49年目)	昭和59年(36年目)
親校	鶴ヶ峯中学校	上白根中学校
小中一貫教育推進ブロック	四季の森小学校	上白根小学校、白根小学校

【一般学級の生徒数・学級数】【R1】令和元年5月1日現在の実数値（一般学級）※2年生は少人数学級を実施。
【R2以降】令和元年度義務教育人口推計による推計値（一般学級）

学校名		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	保有普通教室
上白根中	生徒数	131	119	118	120	115	100	82	16
	学級数	6※	5	5	5	4	4	3	
旭北中	生徒数	473	446	414	387	410	390	391	18
	学級数	13	13	13	12	12	11	11	

2 横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（抜粋）

(1) 適正な学校規模の考え方

教育効果との相関、教員配置など教育指導面における充実や管理運営面、学校施設・設備の効率的利用などから総合的に判断し、次のとおり、適正規模等の範囲を定める。

		11	12	24	25	30	31	(学級数)	
小学校	小規模校			適正規模校	準適正規模校	過大規模校			
中学校	小規模校	準小規模校							
		8	9	11	12	24	25	30	31 (学級数)

(2) 小規模校対策

小規模校の問題を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的・効率的な学校経営を行うために、保護者や地域住民と十分に調整を図り、理解と協力を得ながら、通学区域の変更等を行い学校規模の適正化を推進する。また、通学区域の変更や弾力化等が実施できない場合や実施によっても小規模校の状態が解消しない場合については、学校統合について検討を進めることとする。

3 横浜市における過去の学校統合について

(1) 統合実績（平成31年4月現在）

統合年	区	統合校（関係校）
平成18年4月統合	緑	霧が丘小学校（霧が丘第一小、霧が丘第二小、霧が丘第三小）
	金沢	並木中央小学校（並木第二小、並木第三小）
	栄	庄戸小学校（上郷南小、野七里小）
	栄	上郷小学校（犬山小、矢沢小）
平成19年4月統合	旭	若葉台小学校（若葉台北小、若葉台東小、若葉台西小）
	旭	若葉台中学校（若葉台東中、若葉台西中）
	磯子	さわの里小学校（上中里小、氷取沢小）
平成20年4月統合	港南	野庭すずかけ小学校（野庭小、野庭東小）
平成22年4月統合	瀬谷	瀬谷さくら小学校（下瀬谷小、日向山小）
平成23年4月統合	旭	四季の森小学校（大池小、ひかりが丘小）
平成25年4月統合	中	横浜吉田中学校（富士見中、吉田中）
	保土ヶ谷	川島小学校（川島小、くぬぎ台小）
	旭	左近山小学校（左近山第一小、左近山小高小、左近山第二小）
平成26年4月統合	泉	飯田北いちょう小学校（飯田北小、いちょう小）
平成27年4月統合	栄	上郷中学校（上郷中、庄戸中）
平成29年4月統合	戸塚	横浜深谷台小学校（深谷台小、俣野小）

(2) 統合事例

統合校	上郷中学校（栄区）	丸山台中学校（港南区）
統合年	平成27年4月統合	令和2年4月統合予定
関係校	上郷中学校、庄戸中学校	野庭中学校、丸山台中学校
検討経緯	<p>【平成16年～17年度】 栄区小規模校再編検討委員会を設置 再編対象校 小学校：矢沢小、犬山小、野七里小、 上郷南小、公田小、桂台小 中学校：上郷中、庄戸中、桂台中 検討委員会の結論 ①小学校6校を4校に再編 ②中学校3校は小学校再編の結果を踏まえて再検討</p> <p>【平成25年度】（小規模のまま推移したため） 4月から12月 検討部会（全5回） <第1回>：通学区域変更案を検討 <第2回>：統合方針、使用校舎、学校名を公募方式で選定することを決定 <第3～4回>：通学区域、学校名を決定 <第5回>：意見書を決定し、教育委員会（教育長）へ提出することを確認 2月 教育委員会にて学校統合の方針を決定</p> <p>【平成26年度】 関係校交流</p> <p>【平成27年度】 4月 開校</p>	<p>【平成30年度】 5月から10月 検討部会（全4回） <第1回～2回>：通学区域変更案を検討、各所属団体の意見を基に議論 <第3回>：統合方針、使用校舎、学校名、通学区域を決定 <第4回>：意見書を決定し、横浜市学校規模適正化等検討委員会へ提出することを確認 11月 教育委員会において学校統合の方針を決定</p> <p>【令和元年度】 関係校交流</p> <p>【令和2年度】 4月 開校予定</p>

(参考) 統合事例 2 校の検討着手時の義務教育人口推計

① 上郷中学校 (平成 25 年度義務教育人口推計)

学校名		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
上郷中	生徒数	261	283	285	294	288	279	265
	学級数	9	9	9	9	9	9	9
庄戸中	生徒数	173	190	203	177	175	160	158
	学級数	7	7	7	6	6	6	6

② 丸山台中学校 (平成 30 年度義務教育人口推計)

学校名		H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
野庭中	生徒数	164	141	110	110	98	93	85
	学級数	6	5	4	4	3	3	3
丸山台中	生徒数	480	477	470	472	457	451	405
	学級数	14	14	14	14	13	13	11

(3) 過去の学校統合実施校における影響 (統合校の校長からの聞き取り結果)

	メリット	デメリット
児童生徒について	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えを行えるようになったことで、交友関係が広がり、社会性を育てる環境が充実した。 ・人数が増えたことで、運動会などの行事が活発になった。 ・新しい学校を作っていくという意識から、生徒達が生徒会活動や行事などの学校運営に関して積極的な姿勢が見られた。 ・部活の種類が増え、選択肢が広がったことで、参加率も増した。また、部員数が増え、切磋琢磨しており、生徒達の能力向上にも繋がった。 ・相談や質問できる先生が増えたため、様々な視点からの指導や意見を聞くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境が変わることで生じる心理的負担があった。 ・通学距離が遠くなってしまいう生徒がいた。 ・統合前の母校に対する意識も強く、統合当初は子ども達同士での対立意識があった。 ・統合して2、3年は、制服などそれぞれの学校のものを使用したため、一つになるという意識をもつのが難しかった部分もあった。
保護者について	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA の人員が増えたことで、一人あたりの役割が減り、活動や役員選出がスムーズになった。 ・多様な人材が増え、行事の運営や地域との連携等、様々な場面で PTA の力をより発揮できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合前の両校での PTA 活動や規約、会費に差異があり、立ち上げの際に苦労した。 ・統合当初は互いに気を遣い、意見を言いにくい雰囲気があった。
学校運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・一校の教職員が増えたことで、業務や行事運営などをより多くの人材で協力して進めることができた。また、児童生徒指導や授業内容などにおいて、より多くの視点から話を聞くことができたため、特に経験の浅い教職員の指導力が向上した。 ・クラス編成の幅が広がり、編成を考えやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級数が増えたため、多目的室や教職員が使用する会議室などの余裕がなくなった。 ・行事の際、校庭に対して人数が増えたので、校庭や待機場所等、場所のやりくりで苦慮した。 ・新校としての教育方針が定まり、定着するまでに時間がかかった。

4 義務教育学校について

第1回部会において、義務教育学校についてのご質問をいただきましたので、義務教育学校の内容や設置基準等をお示ししました。

【義務教育学校とは】

平成28年4月1日に学校教育法が改正され、1人の校長のもと一つの組織として9年間一貫した教育を行う「義務教育学校」が新たな校種として創設されました。

小学校課程から中学校課程までの9年間の義務教育を一貫して行う学校のことで、9年間を見通した教育活動を実施することが可能です。

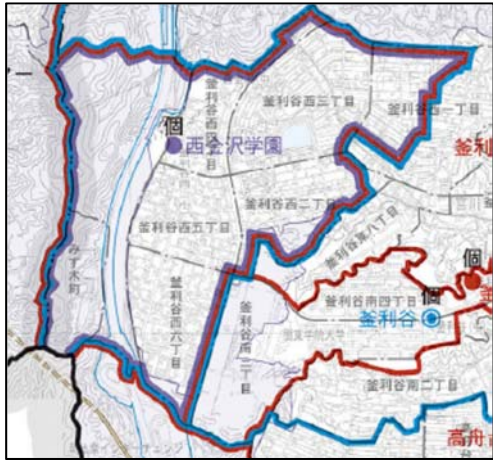

【義務教育学校の効果について】

義務教育学校では、小・中学校の教職員が協働して児童生徒指導や合同授業研究を行ってきた他、幅広い異学年交流や、中学校の教員が小学校へ、小学校の教員が中学校で授業を行う授業交流などの取組により、児童生徒の学習意欲の向上、いわゆる中1ギャップ（小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活に不応を起すこと）の緩和、規範意識や自己肯定感の高まりなどの成果を挙げています。

【義務教育学校の設置について】

義務教育学校は、小中一貫教育を円滑かつ効果的に導入できる環境を整備することを目的に設置されており、文部科学省関係省令では、新設する際に学級数は18学級以上27学級以下を標準とすることと定められています。

(参考) 開校している義務教育学校の状況

	西金沢学園	霧が丘学園
沿革	平成22年4月 西金沢小中学校 開校 平成29年4月 名称変更	平成22年4月 霧が丘小中学校 開校 平成28年4月 名称変更
一般学級の 児童生徒数※	前期課程 469名 後期課程 161名	前期課程 520名 後期課程 289名
一般学級の 学級数※	前期課程 16学級 後期課程 6学級	前期課程 16学級 後期課程 9学級
通学区域図		

※ 令和元年5月1日現在の実数値。

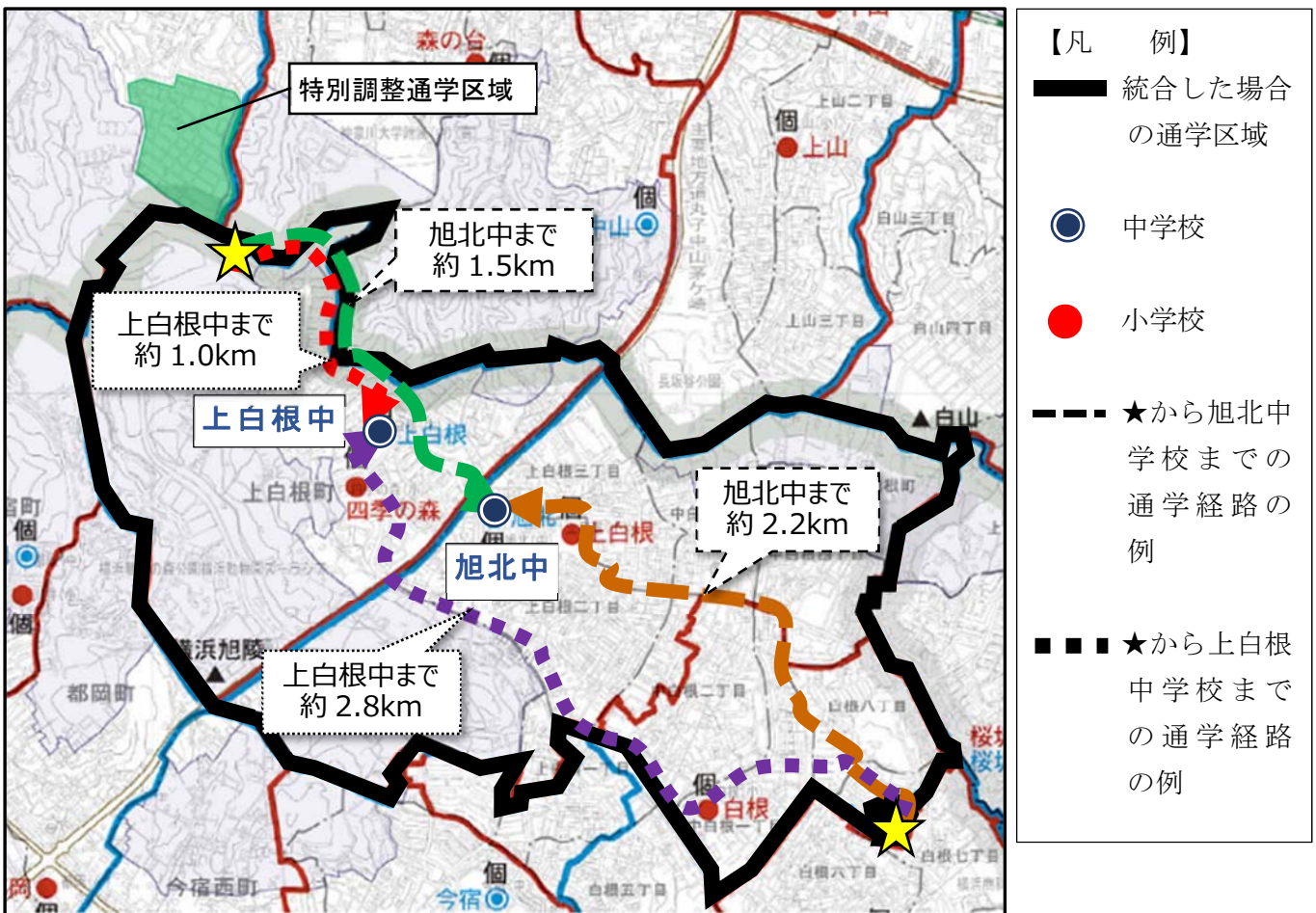
令和4年度に緑園西小学校と緑園東小学校の通学区域を基本とした義務教育学校を泉区緑園五丁目に設置予定です。現在、開校にむけた準備を進めています。

5 旭北中学校と上白根中学校が統合した場合の推計について

現在の旭北中学校の通学区域と上白根中学校の通学区域を合わせた区域を統合校の通学区域とした場合の推計をお示ししました。

学校名		実数	推計						
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
上白根中	生徒数	131	119	118	120	115	100	82	
	学級数	6	5	5	5	4	4	3	
旭北中	生徒数	473	446	414	387	410	390	391	
	学級数	13	13	13	12	12	11	11	
統合校	生徒数	—	565	532	507	525	490	473	
	学級数	—	16	16	15	15	14	14	

(参考 1) 通学区域と各中学校への通学距離



(参考 2) 通学区域設定にあたっての考え方

《横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（抜粋）》

「学校規模」、「通学距離」、「通学安全」を基本としつつ、「地域コミュニティとの関係」や「行政区」、「小学校・中学校の通学区域」を総合的に配慮して設定する。

設定にあたっては、道路、鉄道、河川等で地形的に通学区域が区別されていることが望ましい。

◆通学距離

横浜市では、地域の大半が市街地であり、その道路交通事情等の状況を踏まえると、自転車通学は難しいことから、徒歩による通学を原則とする。徒歩での通学を前提に、児童生徒の体力・通学安全などを総合的に勘案し、望ましい通学距離は、小学校では片道おおむね2 km以内、中学校では片道おおむね3 km以内とする。

⇒(学校規模の適正化に向けた検討案などについて、事務局から説明しました。)

☆上白根中の存続をさせたいです。学区を上げたとしても小規模校のままですが、上白根中は団地の中にあり、団地再生の動きがあります。団地再生をするのに、地域に小学校があつて中学校がなくなってしまうのは整合性が取れないのではないのでしょうか。小規模校で友達が固定化したり、先生の数が少ないなどの面はありますが、小規模であるメリットの方が大きいと感じています。

☆7年前に推計していた生徒数の推移と実際の生徒数の誤差はどれくらいあるのか知りたいです。7年前の推計で小規模校になることが見えていたとしたら、仮に今回統合をしても、再び小規模校になってしまうのではないのでしょうか。そうなってしまった場合は、また統合を繰り返す対処法なのか。それよりも小規模校でも学校運営ができるような検討をする必要があると思います。また、今後も小規模校が増えていくと思いますので、公立の中学校でも、特色を持たせ、学区にとらわれず広いエリアから生徒を呼びこめるような学校にすることもひとつの検討材料ではないかと思います。

⇒7年前の推計を次回の部会で御説明します。

☆学校を支援している中で、一般的な小規模校の傾向をお話いたします。クラス数が少ないので、教科別や少人数教室など有効に使えます。半面、使われない教室があります。また、学校の先生が生徒のことを把握し、全体的に見守って指導することができますが、3年間で出会える先生や生徒の数が少ない点があります。さらに、自分たちのパフォーマンスの質を高める視点の取り組みができる反面、行事などで順位を競うことが難しくなります。今後1クラスになってしまうと、密な関係が築けますが、人間関係は固定したものになってしまいます。

☆実際に上白根中で小規模校の問題などがあるか先生にお聞きしたいです。

☆四季の森小学校を卒業した児童がそのまま上白根中に来るので、子ども同士も保護者も分かりあっている状況で、今は各学年2クラスずつあるので、関係性はすごくいいです。大きい学校だと、体育館や特別教室(音楽室、理科室など)が授業で取り合いになってしまう状況がありますが、上白根中はクラス数が少ないので余裕があります。また、職員が生徒全員に関わるので、顔が見えていて、指導も丁寧にできていると思います。職員同士も人数が少ないので結束は固いです。部活動も絶対数が少ないですが、一生懸命にやっています。しかし、一人ひとりが担当する仕事は多いです。今の学校運営が厳しいことにはないですが、これから1クラスずつになった時に、子どもの関わりとか、活動とかは厳しいと感じています。本当は1学年3クラスあると子ども達にとっていいのではないかと思います。部活動も含め、これ以上生徒が減ってしまうとかなり負担は厳しいです。

☆例年、年度末になって来年のクラスが心配になってきたときに保護者からクラス替えの相談を受けます。保護者の方もクラスは分けられるほうがいいと感じているのではないのでしょうか。上白根地区は1小1中の学区になっています。メリットを感じるのは、四季の森小で話し合い活動をやっていますが、上白根中の授業を見せてもらおうと、授業でグループを作って話し合いなさいと言うと、とても上手です。それは小学校でずっと一緒にやってきた繋がりがあるからだと思います。心配なのは、中学生から高校生になった時に、初めてまったく知らない人間関係の中でどのように自己主張すればいいのか、新しい友達とどう付き合っていくのかなど、子ども達はとてもびっくりすることだと思います。そこで挫折してしまう子もいるのではないのでしょうか。小さな人間関係の中だと、出会える子どもの数が少なく、刺激が少ないのは間違いないと思います。高校生になったときに新しい刺激に出会って、大きなショックを受ける。問題なくやっていける子もいますが、ショックを受ける子の方が多いのではと感じています。

☆ひかりが丘の団地は高齢化が著しく、先を見ても子どもが増えないと感じます。いつかは統合といった形に持っていかななくてはと感じています。上白根中学区では、小学生や中学生が地域と一体になってボランティア活動をしていますし、小さいから統合でどこかにいくという考えではなくて、皆さんで考えながら統合によって地域特有の良さが広がることになれば良い形になると思います。

☆これまで部会の議論として、小規模校だから良い面と、小規模校だから悪い面というのが出ています。上白根中はこのところ評判がいいと聞いています。先生が生徒に良いフォローをしてくれています。また、大学生と連携してプロジェクトマップの作成をするなど、特徴ある教育が来ています。子どもが減っていくから、学校をなくして統合だけをしていくのでは先詰まりになってしまいます。生徒数に配慮しながら、教育に特長をつけて、試験的にやっていくのも良いのではと思います。

☆上白根中の活動は素晴らしいと感じますが、今の6学級の学校規模だからできている部分があると思います。これから学級数が減っていった時に、教員数はどれくらいになるのでしょうか。その教員数でどういった教育活動ができるかが懸念されます。上白根中の保護者たちは小規模校の良さが分かっていると思います。今の状況が続けばいいなと思うことや、デメリットの部分について今後の不安をどう感じているか聞きたいです。

⇒学級数・生徒数によって文部科学省の基準で教員の定数が決まっています。今の上白根中ですと、学級数が1つ減ると、教員も1人減るような形となります。横浜市で各学年1クラスになった中学校の事例はほとんどなく、学校運営にどの程度の影響があるかは分かりません。

☆現在の環境はすごくいいと思っています。先生が丁寧に気を配っていただいて、子どもや保護者にも声をかけていただいています。子ども達から学校でのできごとを聞きますが、先生とのコミュニケーションなど感謝しています。一方で、小学校、中学校と変わらない人間関係で過ごしてきた子供たちは、高校生という多感な時期になって初めて、新しい人間関係を作っていく経験をしなければなりません。今のままでいいという気持ちもありますが、これから入学してくる子ども達のことを考えると、この状況でいいのかと心配と満足が混じっている心境です。

☆今の状況には満足しています。それが正直な気持ちです。競争心など、生徒が少ないと芽生えないと思っているかもしれませんが、子どもは子どもなりに人数が少なくても「あの子に勝ちたい」とか言いますし、競争心は親が気にしなくても芽生えてくると思います。行事をするにも生徒が少ないからこそ主体的にやって、自分の意見を言わないといけけないので、行事にしっかり向き合っています。クラス替えができない状況になりますが、小学校から安定した人間関係の中で一番大切な9年間を過ごせることは親としては幸せだと思っています。

☆過去に学校統合を検討した地区で、統合をしなかった事例はありますか。

⇒統合の検討に着手して、統合をしなかった事例はありません。ただ、栄区の上郷中・庄戸中については、平成16年に小規模校対策の検討を開始しましたが、検討時点では小学校の統合にとどめ、生徒数が少なくなったら統合する方向性だけを決めました。その後、生徒数が少ないまま推移する状況が続いたため、平成25年度に再度検討を開始し、その結果、統合となりました。

☆義務教育学校のメリット・デメリットについて次回の検討部会で説明してほしい。

⇒次回の部会で資料を用意して御説明します。

7 検討部会に寄せられた意見

- ・学校統合した場合、校舎が上白根中学校に決定した時は遠いので、他の学校も選べるようにしてほしいです。
- ・両校を統合して、統合校を新たな名前で旭北中の位置に設立するのがいいと思います。また、防災施設を兼ね備えたり、カフェテリア方式でコミュニケーションを誰とでも取れる空間を設けるなど、学校をリフォームして、新しい中学校にしたらどうでしょうか。
- ・他都市で中学校時代に統合によって母校がなくなる経験をしました。最後の卒業生となり、そのとき、伝統がなくなる、寂しい、といった悲しい気持ちもありましたが、新しい学校が作られることにワクワクした気持ちもありました。新しい学校を作っていくという皆さんの気持ちがあれば、子ども達を巻き込み、いい学校が作れると思います。
- ・鶴ヶ峯中や今宿中などの中学校の学区も同じく検討していかないと根本的な解決にならないと思います。
- ・学校統合には反対です。中原街道を横断するの必要があり、歩道橋を設置するなどの安全確保が必要です。団地内に学校がなければ若い世代が流入しづらくなり、生徒数の減少や高齢化にも拍車がかかってしまうのではないのでしょうか。また、それぞれの学区の地域性は違うと思うので、いじめ等が発生しないか心配です。
- ・上白根中を存続させるための提案です。旧ひかりが丘小の施設を活かせないでしょうか。例えば、上白根中学校をあえて旧ひかりが丘小跡地に移転して通学区域を増やすことはできないでしょうか。他にも、旧ひかりが丘小を寮として改修し、全国から様々な問題を抱えている子どもたちを受け入れ、上白根中に通ってもらうような制度を作ることはできないのでしょうか。
- ・学校統合が避けられないなら中山中学校へ通学できるようにした方がいいと思います。

8 検討部会に寄せられた質問 (⇒ 事務局回答)

- ・部会が非公開となった理由は何故ですか。
⇒ 委員の皆さんが自由な発言ができなくなることを避けるため非公開となりました。
- ・通学区域変更案を見ると統合ありきに感じます。教育委員会が統合の方針なら保護者説明会を行い、部会の方向性を示すべきではないでしょうか。
⇒ 横浜市教育委員会では、「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」を定めています。その中で通学区域の変更によっても適正規模化が図れないのであれば、学校統合についても検討することとしております。同様の内容について、7月末に保護者及び地域の皆様への説明会を実施しております。

◆第3回検討部会について ※会議は、非公開とすることを決定しました。

日時：令和2年2月6日(木) 19時00分から 会場：ひかりが丘地域ケアプラザ

◆「旭北中学校・上白根中学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会の経過等について

検討部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからもご覧になれます。



<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/kamisirane.html>

◆事務局（お問い合わせ先）

皆さまからの御意見や御質問を受け付けております。Eメール又はFAXでお寄せください。

横浜市教育委員会事務局 学校計画課

Eメール：ky-asahi2019@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417

電話：045-671-3252

